

植物と暮らすミャンマー 4 : 花飾り(2)

ジャスミンの仲間と同様、アカテツ科のミサキノハナ／*Mimusops elengi*(Khayay)も糸に花を通して飾り紐にする。白から淡い黄色の星形の小さな花は、摘んでから長く枯れずによく香る。ジャスミンに比べて花が小さいので、飾り紐にするのにはたくさんの花が要る。僧院などではこの樹をよく見るが、数はそれほど多くなく咲く時期も限られるので、花集めに手がかかる。売り物の飾り紐は見たことがないので、髪飾りにしたい女の子が根気よく作るのだろう。白花の中で麗しさに優るのは、ショウガ科のハナシュクシャ／*Hedychium coronarium*(Ngwe-pan)だ。村では、雨水で湿りがちな軒先などで観賞用に育てられている。純白で芳香のある大きな花は、子どもの遊び的な使われ方はあまりされず、女性の装いとして一つ二つ髪にさされる。同属で花弁の中心付近が黄色いキバナジンジャー／*H. flavum*(Shwe-pan)も華やかだが、ミャンマー女性の深い黒髪をより引き立てるのは Ngwe-pan(「銀の花」の意)のように思う。

(大野勝弘)

ハナシュクシャ(花縮砂)の中学生。暑い田舎道で、白花と黒髪が涼しげだった(Wakon 村 2010.9.10)。



ミサキノハナの飾り紐。女学生に後ろを向いてもらう撮影は失礼だったろうか・・・(Htauk Kyant の街で 2014.10.7)。